

第43回高知県公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：令和7年9月9日（火） 10：00～11：00

場 所：高知県公立大学法人永国寺キャンパス教育研究棟3階A311（役員会議室）

参加者：評価委員：森下勝彦委員長、中平雅彦委員、黒江ゆり子委員（オンライン参加）、
江口忠臣委員

高 知 県：後藤私学・大学支援課長、上田課長補佐、ウォルシュチーフ、汲田主査
高知県公立大学法人

（法人本部）：伊藤理事長、原本部長、福田副本部長、久保総務部長、小林財
務部長

（高知県立大学）：甲田学長、五百蔵副学長、井上事務局長、溝渕次長、宮脇総務
部長

（高知工科大学）：蝶野学長、岩田副学長、八田副学長、小廣副学長、大野局長、
川崎次長、福留次長、栗山次長、竹田総務部長

委員長	令和6年度高知県公立大学法人の取り組み報告について、高知県立大学から説明をお願いします。
高知県立大学	・・・説明・・・
委員長	ご意見ご質問があればお願いします。
委員長	私の方から1点。 科研費の新規採択件数のKPIが目標値に少し届かないという点について、原因として時間がないという説明であったが、時間がない理由は。
高知県立大学	教員は教育や社会貢献活動など研究以外の業務もたくさん抱えておりますので、研究に割ける時間が減っているというのが大きいと思います。この点につきましては、大学側としても研究活動の支援体制を強化していく必要性を感じています。 また、国からの資金に頼るだけでなく、地域と連携した研究活動も選択肢として検討していくべきだと考えているところです。
A委員	10年戦略の中に地域社会貢献活動も含まれているとのことですが、その中で公開講座の開催数やリカレント教育の開催数が目標値を上回っているというのは、計画に基づくものなのかそれとも住民ニーズによるものなのか、詳しくお聞かせいただきたい。
高知県立大学	高知県立大学では公開講座やリカレント教育の開催をかなり以前から盛んに行っておりました。このため、以前からお付き合いのあった医療福祉施設や学校から再度依頼をお願いされることがあり、そういった

	点でニーズはあります。 年ごとに依頼件数が増えているというものではありませんが、こういった継続的な地域社会との関わりが我々の強みの一つであると認識しています。 10年戦略との関連で言うと、地域共生社会の実現を目指し、教職員・学生が地域に出て、地域住民と一緒に社会課題の解決を目指す——「リ・デザインプロジェクト」が昨年度から始動しています。地域への直接的な介入を通じて、我々県立大学の役割を果たしていこうと考えております。
A 委員	教員の研究時間との兼ね合いが難しそうだなと感じたが、社会貢献はとても重要なことなので、こうした活動をベースにした科研申請ができればよい。
B 委員	地域志向教育の推進とリ・デザインプロジェクトに関連があるようでしたらお教え頂きたい。
高知県立大学	以前からあった域学共生や地域志向の教育から、実地での働きかけをより進め、単発的なものでなく継続的なものへ、より繋がりを強めていこうというのがリ・デザインプロジェクトで考えている取り組みになります。
委員長	続いて、令和6年度高知県公立大学法人の取り組み報告について、高知工科大学から説明をお願いします。
高知工科大学	・・・説明・・・
委員長	ご意見ご質問があればお願いします。
委員長	私の方から1点。「女子学生に限定した入学試験」というのはどのようなものか。
高知工科大学	データ&イノベーション学群の年内入試において、女子学生を対象とした入試区分を若干名設けているものです。
委員長	成績のボーダーもあるのか。
高知工科大学	はい。選考基準がありますので、それに沿って合否判定をしております。 本学は工学系ということもあり、元来男子学生が多くを占めております。このため、女子学生をもう少し増やす取り組みの一つとしてまずはデータ&イノベーション学群で、令和8年度からはシステム工学群においても実施することとしております。
A 委員	大学院の説明を入学時からされているということで、何か工夫されていることがあればご説明を。
高知工科大学	例えば、大学院まで進学した場合とそうでない場合の生涯年金の違い

	であったり、工学系は学問分野がかなり細分化されており 4 年間では研究時間が足りないというような話をいたします。また、入学式にいらっしゃる親御さんに説明させていただく、という点も考え、入学時にガイダンスを行っております。
A 委員	大学院へ進学された者に女性はいるか。
高知工科大学	いらっしゃいます。
B 委員	小中高校へのブルーバード訪問教育による出前授業回数が目標値に届かなかったということだが、実際、どのような評価をいただいているのか。
高知工科大学	概ね好評いただいております。
B 委員	低学年の理科教育に関してジェンダーの影響が潜在的に存在しているという話もある。理系分野の高等教育機関による働きかけをされることも期待されているようなのでお伺した。
委員長	続いて、令和 6 年度高知県公立大学法人の取り組み報告について、高知県公立大学法人から説明をお願いします。
法人本部	・・・説明・・・
B 委員	次の認証評価までの期間における活動、評価・点検は各大学で行われているという認識で良いか。
法人本部	基本的には各大学で対応頂いております。その上で、両大学に関することや法人の関与が必要な事項については法人本部でも対応をしております。
委員長	ハラスメントについて、内部通報制度は設けられているか。
法人本部	内部通報制度については作成して 3、4 年経過しており、実際に通報を受けた実績もございます。
A 委員	エネルギー消費の引き下げというのはなかなか難しいと感じる。どういった努力をされているのか。
法人本部	例えば、室温を 25 度以下にはしないよう設定している他、証明の LED 化など、できることはできるだけ取り組んでいます。 勿論、省エネを意識しすぎるあまり研究に支障がでてはいけません が、それぞれ教育研究活動の中においてもできる範囲で意識して取り組んで頂いているところです。
委員長	では次に、高知県公立大学法人令和 6 年度決算の概要について、法人本部から説明をお願いします。
法人本部	・・・説明・・・
委員長	全体を通して質問があればお願いします。
C 委員	生成 AI について、大学における最近の実態をお伺いしたい。

高知工科大学	生成 AI については積極的な運用を進めております。 学生についても禁止しておらず、使用に当たり留意すべき点を条件付けして学生に示しております。
高知県立大学	生成 AI の生成物もかなり自然になり、いろいろなところに使えるようになってきました。これにより例えばレポート作成に生成 AI が使用された場合に我々がこれを見つけられるのか、指導できるのかという課題を突きつけられているのではないかと感じています。 大学運営の観点からは活用が見込まれるツールであるので、常に学習を続ける必要があると考えます。
委員長	毎年度毎に達成目標が決まっている KPI が結構あります。ここで達成不足となっているものは、中期計画の最終年度までの累計では達成できましたよ、というように不足分をカバーできるような取り組みを進めて頂きたい。
委員長	それでは、本日の議事は終了させていただく。司会を事務局にお返しする。
事務局	8 年度についても同様の形で、年 1 回報告の場を作り、委員の皆様に情報共有させて頂く。

----- (終 了) -----